



コンクリートに投入する砕石を木と混合して製造する湿式砕石粉

石「中央砕石」
中央「カクテル」

一本使い砕砂でJIS取得

精製砕石粉添加し 微粒調整 分量調整

中央砕石(大阪府高槻市、山本和成社長)は、1月18日付で二本使い可能な湿式砕砂「カクテルサンド(CS)」のJISA5005(コンク

リート用砕砂)認証を取得した。CSは生コンのワーカーリテイ改善を目的に湿式砕砂に精製された砕石粉を添加して微粒分量を調整した製品で、

通常の砕砂に比べて細骨材中の混合比率を高められる。ユーザーの大阪府内の生コン工場は昨年からCSを細骨材で100%使用し、暑中や寒中を含め安定した品質の生コンを出荷す

る。「JIS取得をきっかけに山砂の品質・数量の安定供給が懸念される京都府内を中心に天然砂代替としての提案を加速し、月間1万ト以上の出荷を目指す」(坂井博文 砕石事業部長)。並行してNETIS登録申請および出願中の製造特許について審査申請を行う考

えだ。砕石粉を添加した骨材のJIS認証は全国初とみられ、前例がなく審査は難航した。「他社のスラッジを燃やして粉状にしたものを砕砂に添加し

た製品の申請事例はあったが、スラッジと砕砂の産地が異なる等により認められなかった。当社のCSに添加する砕石粉は乾式製造時の副産物を精製した商品(商品名・中央ファイラー)。湿式砕砂と同一の採石場の原石から製造し、同じ成分であることを強調した」(松下晴彦事業支援部長代表)

通常の砕砂に比べて細骨材中の混合比率を高められる。ユーザーの大阪府内の生コン工場は昨年からCSを細骨材で100%使用し、暑中や寒中を含め安定した品質の生コンを出荷す

る。「JIS取得をきっかけに山砂の品質・数量の安定供給が懸念される京都府内を中心に天然砂代替としての提案を加速し、月間1万ト以上の出荷を目指す」(坂井博文 砕石事業部長)。並行してNETIS登録申請および出願中の製造特許について審査申請を行う考

えだ。砕石粉を添加した骨材のJIS認証は全国初とみられ、前例がなく審査は難航した。「他社のスラッジを燃やして粉状にしたものを砕砂に添加し

た製品の申請事例はあったが、スラッジと砕砂の産地が異なる等により認められなかった。当社のCSに添加する砕石粉は乾式製造時の副産物を精製した商品(商品名・中央ファイラー)。湿式砕砂と同一の採石場の原石から製造し、同じ成分であることを強調した」(松下晴彦事業支援部長代表)

現在CSを生コン工場に月間約4千ト出荷しており、京都府内の2工場がCSの使用を検討している。「細骨材の混合使用が困難な中、小規模の生コン工場に対し、骨材サイロの有効活用や計量時間短縮につながる優位性を示し、段階的に混合比率を高めて一本使い

粒分量 $5 \pm 2.0\%$ 。そのほかはWSと同じで絶対密度 2.5 g/cm^3 、吸水率 2.5% 以下、安定性 10.0% 以下、粗粒率 2.80 ± 0.15 、粒形判定実積率 55% 以上。CSの製品試験については臨時審査において微粒分量以外の試験項目は元砂のWSの試験値採用を認められた。

してほしい。当社も細骨材の供給を保証して供給責任を全うする」(坂井事業部長) 人工的に管理して製造するCSは天然砂に比べて生コン工場内の貯蔵や横持ち等による粒度等の品質変動も少なく、一本使いしても特殊な混和剤は必要ないという。

16年度(16年1~12月)の砕砂出荷量は月間平均2万2千トで、このうち乾式1万5千ト、湿式7千ト。上期に新名神高速道路のトンネル吹付け用のWSの出荷が終了したが、CSの出荷開始で補った。17年度はCSを拡販して砕砂全体で月間3万ト、年間36万ト規模まで増やす方針。